

2. 社会的責任・環境コミュニケーション

環境に関する教育・研究を通じた社会貢献や地域交流への取組、大学としての社会的責任であるダイバーシティ（多様性の尊重）についての取組、学生の環境活動など、名古屋大学の幅広い環境活動を紹介します。

2-1 SDGsワークショップ —Spread Discuss Gain square—

環境コミュニケーション

SDGsという言葉の認知度は上がってきているものの、その目指す世界を実現するためには、理念や価値を深く理解して行動することが必要です。その本質的な理解を得るために、中央図書館で開催された「SDGsワークショップ」について紹介します。



(P23)

2-2 LGBT等に関する名古屋大学の基本理念と対応について

ダイバーシティ

ジェンダー平等の推進とともに、多様性の尊重が重要になる中、名古屋大学でも2018年5月に「LGBT等に関する基本理念と対応ガイドライン」が制定されました。当事者を取り巻く課題を8つに分類し、それぞれ具体的な方針を示しています。その中身について紹介します。



(P24)

2-3 大学生から始める環境活動

学生たちの環境活動

名古屋大学環境サークル Song Of Earthでは、「大学生にもできる環境活動について考える」ということをテーマに、さまざまな活動に取り組んでいます。リユース市や緑化活動、エコ工作など、学内外での活動について紹介します。



(P25,26)

2-4 学生サークルによる継続的な環境への取組の実践

学生たちの環境活動

学生サークルによって継続的に行われている環境活動について紹介します。



(P27)

2-5 木材利用による二酸化炭素排出削減と炭素貯蔵

卒業生の活躍

大学院生命農学研究科を修了した都築知佳さん。在学中に学んだ木材利用についての知識を生かし、現在では木材産業に身を置いて、木材利用による環境貢献を目指して活躍しています。在学中の経験・知識と、現在の仕事とのつながりを紹介します。



(P28)

2-6 大規模災害に向けた対応力向上と連携

防災

災害時に備えたハード・ソフト両面からの安全対策や、大学の重要機能を止めないこと、地域との連携を強化することなど、将来の自然災害に向けて、構成員の安全を守り、大学機能を継続するための取組を紹介します。



(P29)



附属図書館と法学部国際政治学三浦ゼミとの協働による SDGs の普及

2019年1月10日、中央図書館において「SDGsワークショップ— Spread Discuss Gain square (広げる語らう 手に入れる) —」が、附属図書館と法学部国際政治学三浦ゼミとの共催により開催されました。本ワークショップは、法学部国際政治学三浦ゼミの学生が中心となって企画し、本学の学生や職員の他、高校生5名、国連地域開発センター職員2名を含む28名が参加しました。

1 SDGs の壁「自分には関係ない…？」

SDGs (持続可能な開発目標) という言葉の認知度は高まりつつあるものの、実際に日常生活の中でSDGsの達成を意識して行動している人は、まだ多くありません。SDGsの目指す世界を実現するためには、われわれ自身がSDGsの理念や価値を深く理解して、自分にできることを考え、具体的に行動を起こさなければなりません。今回のワークショップでは、参加者がこのような壁を越え、SDGsについて本質的な理解を得ることを主な目標としました。

2 中央図書館における SDGs 関連図書展示

附属図書館には、SDGsについて学ぶために役立つさまざまな資料が揃っています。ワークショップの開催に先立ち、中央図書館では、SDGs関連図書のミニ展示を行いました。



SDGs関連図書のミニ展示

3 カードゲームで SDGs の世界を体験

ワークショップでは、株式会社イマココラボから公認のファシリテーター(よりよい議論へと導く進行役)を迎え、カードゲームを用いて、現在から2030年までの世界をシミュレーションしました。



使用したカード「2030SDGs」

参加者は、ゲーム体験と現実世界とを紐付けながら活発な議論を行い、自らの行動と持続可能な社会の実現とのつながりについて理解を深めました。ゲームの後には、遠藤和重国連地域開発センター所長による講演も行われました。



戦略を話し合う参加者ら

4 広げる 語らう 手に入れる

今回の参加者の多くは初対面で、世代や所属するコミュニティもばらばらでしたが、SDGsという一つの目標の達成に向けて、話し合い、それぞれの立場でできることを考えるうちに、いつしか会場には一体感が醸成されていました。立場の異なる人々が対話を通して視野を広げ、SDGsへの取組の必要性について共通認識を得たことは本ワークショップの大きな成果です。多様な人々が集い、知を育む場である大学図書館が、今後もSDGs推進のプラットフォームとして活用されることを期待しています。

ゲーム途中の世界の状況メーター
(上から「経済」「環境」「社会」)

ゲーム後の意見交換の様子

附属図書館情報管理課



LGBT 等ガイドラインの制定

1 LGBT 等ガイドラインとは

ジェンダー平等の推進とともに多様性の尊重が重要になる中、本学では LGBT 等の性的個性を持つ構成員への対応として、2018 年 5 月に「LGBT 等に関する基本理念と対応ガイドライン」を制定しました。

同基本理念では、本学はさまざまな個性を持つ学生および教職員すべてが尊重されるキャンパスを確保する責務があり、LGBT 等の性的個性についても、同様に尊重され、その能力が存分に発揮できる教育・研究・就業環境の整備に取り組むとともに、理解を深めるための啓発活動を積極的に実施していくと記載されています。

本ガイドラインの主な特徴は 2 つあります。1 つ目はその名称です。性的少数者やセクシュアル・マイノリティなどの「少数者」や「マイノリティ」といった

社会的排除を連想させる用語は避けることとしました。また、社会的によく用いられる「LGBT」という用語についても、それだけではくれない多様性があることから、「LGBT 等」と称することに決定しました。2 つ目は、ガイドラインの対象者を、学生だけでなく、教職員も含めている点です。

2 LGBT 等ガイドラインの内容

同ガイドラインでは、LGBT 等の当事者を取り巻く課題を 8 つに分類し、それぞれ具体的な方針を示しています。

今後は、学内構成員からの声を集めて課題を整理し、同ガイドラインの改訂に反映させたいと考えています。

■「LGBT 等に関する名古屋大学の基本理念と対応ガイドライン」の内容（8 つの対応方針の概要）

情報管理

- ①氏名の変更
(通称名の使用可)
- ②性別の変更
(戸籍変更時)
- ③性別情報の取扱
(原則除外提示)
- ④証明書等の性別記載
項目の見直し
- ⑤大学に提出する諸書
類における性別情報
の記入見直し

授業

- ①全学教育科目「健康・
スポーツ科学実習」の
履修、更衣室、用具
等の配慮
- ②学外実習(教育実習)
等への配慮
- ③授業における
グループ分け
- ④授業等での
呼称

学生生活

- ①定期健康診断への配慮
- ②学生宿舎への入居時配慮
- ③入学式・卒業式での
服装と身なり(従前より
ダイバーシティ推進の
観点から可能)

就職活動等

- ①インターンシップ・
就職活動時の相談対応
- ②学生生活に
関する相談

留学

留学希望者への配慮

福利厚生人事制度

パートナーがいる職員が、配偶者がいる職員と同様の福利厚生や人事制度(国および文部科学省共済組合の制度を除く。)を受けられることができる制度の新設

<特別休暇> 結婚休暇、産前休暇、産後休暇、配偶者出産休暇、子の看護休暇、介護休業、介護部分休業、忌引休暇、追悼休暇

<諸手当>* 扶養手当、単身赴任手当

*諸手当を受給するためには、市町村等が発行する「パートナーシップ証明書」等の提出が必要

環境整備

今後、学内において施設改修時等に「多目的トイレ」や「更衣室」を整備

相談窓口

大学構成員本人や、その家族を対象に、本ガイドラインに示した内容を中心に、LGBT等に関するワンストップ相談窓口を整備

LGBT等に関する名古屋大学の基本理念と対応ガイドライン

(日本語版) http://www.nagoya-u.ac.jp/about-nu/upload_images/20180822_lgbt.pdf

(英語版) http://www.nagoya-u.ac.jp/about-nu/upload_images/20180926_lgbt_en.pdf



男女共同参画センター
准教授 三枝 麻由美

環境サークル Song Of Earth の取組

1 環境サークル Song Of Earth

私たち名古屋大学環境サークル Song Of Earth (以下 SOE) では、「大学生にもできる環境活動について考える」ということをテーマにしており、日頃から身近な環境についての話し合いなどを行い、さまざまな活動に取り組んでいます。具体的には、緑化活動、エコ工作、リユース市、言の葉キャラバン(全国植樹祭 PR 活動)、水質調査などがあり、学内外問わず幅広い活動を目指しています。最近では、学外の活動に力を入れており、今までは文化祭でしか開催していなかったエコ工作を近隣小学校でも開催したり、他団体との交流も積極的に行っています。

2 リユース市

私たちが特に力を入れている活動にリユース市(名古屋大学下宿用品リユース市)というものがあります。リユース市とは、卒業生や地域の方が使わなくなった家具、家電製品、日用品などを譲り受け、それらを主に下宿をする予定の新入生、下宿している在学生に提供するイベントです。リユース市は、SOE のメンバーが中心となり、名古屋大学下宿用品リユース市実行委員会を組織し、企画・運営を行っています。例年、下宿をする予定の新入生が参加しやすい3月頃に学内で開催し、2019年春で24回目を迎えました。



リユース市当日は100名を超える方に来場していただきました

このイベントの準備は9月から始まります。この時期にはまず、開催日・開催場所を決定します。その後、12月までに物品回収日程や回収制限量の調節を行い、翌年1月にはホームページの開設、開催告知広報などの準備を整えます。そして、2月から回収を始め、物品の清掃と管理を行い3月にリユース市当日を迎えます。リユース市終了後は、当日の引き取りが困難な方には後日引き取りに来ていただくか、私たちが自宅まで配送し、物品がすべて次の利用者の方に渡った時点ですべてが終了します。



238品の物品を提供していただきました

この活動の中で一番大変なのは、物品の回収です。回収時は自分たちでトラックをレンタルして提供者のところまで回収しに行き、多い日には1日で10軒以上訪問することもあります。物品には冷蔵庫やタンスなどの大きいものもあり、かなりの肉体労働です。それでも、提供者からの感謝の言葉をいただいたときやリユース市当日に多くの方に来場していただいたときには、やはり大きなやりがいを感じます。

それではなぜ、このような活動を始めるといったのでしょうか？ それは、本学の特徴として、全国各地から多くの学生が集い、大学周辺で下宿生活を送っているという現状に起因しています。そのような学生にとって、新規に家電等を買そろえることは大きな負担となり、また、遠方からの学生は実家から持ってくるということも困難です。一方で卒業生も転居等にあたり、必要なくなった家電等の処分に頭を悩ませています。そして、最悪の場合は誤った方法での処分や不法投棄ということも考えられます。その家電の中には在学期間中しか利用しておらず、捨てるにはもったいないと感じるようなものもあるでしょう。私たちは、そのような現状を打開できないかということを考え、リユース市を開催するに至りました。

そして、物品を提供していただける方や物品を譲り受ける方には、このイベントを通じてエコ、環境活動について考えるきっかけにしたいと考えています。



物品回収の様子

3 そのほかの活動について

私たちはリユース市以外にもさまざまな活動をしています。その一部を少し紹介します。まずは、花いっぱい運動です。これは、春と秋の年2回に分けて大学の花壇やプランターに花を植えるという活動で、2018年は春にヒマワリ、秋に菜の花とレンゲを植えました。草刈りや水やりが非常に大変ですが、毎年多くの方が声をかけてくれたり、写真を撮りに来たりしてくれて、とてもやりがいを感じています。ほかにはエコ工作というものがあります。この活動では、牛乳パックやペットボトルを再利用して子どもたちに環境やエコについて考えてもらいながら工作を楽しんでもらうことを目的にしています。今までは、毎年学内の文化祭で開催していましたが、2018年は地域の小学校に出向いて開催しました。

4 今後の活動

これからの活動では、私たち自身がより深く環境について考えるとともに、皆さんに私たちの活動を理解していただけるようなことを行っていきたいと考えています。現在でも牛乳パックやペットボトルを再利用したエコ工作で子どもたちにリサイクルについて考えてもらうような活動を行っていますが、まだまだ広まっているとは言えない状況です。そこで、具体的な目標としては「ecocon」での表彰を目指したいと思っています。「ecocon」とは、全国大学生環境コンテストのことで、環境に関心のある全国の大学生が1年に1度集まり、発表・交流・学習する場です。このコンテストでは、社会からの評価による学生環境活動のさらなる向上、社会への発信、社会や学生同士のネットワークの形成に取り組む、ということが目標に掲げられていて、さまざまな大学の環境団体ごとに自らがその1年間に取り組んだ活動を発表し合います。SOEでもそれらの課題解決に積極的に取り組みたいと思っています。そして、私たちも「ecocon」に出場することで、多くの人に私たちの取組を知ってもらうとともに、環境活動について考えるきっかけにもらえればと考えています。



プランターを色鮮やかに



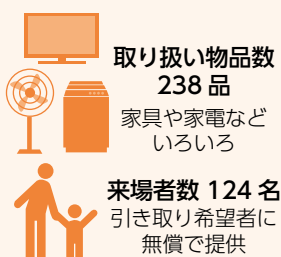
花壇を花いっぱい



伊勝小学校でのエコ工作の様子

名古屋大学環境サークル Song Of Earth ホームページ
<https://nu-soe.jimdo.com/>

下宿用品リユース市



花いっぱい運動



名大祭での出店（エコ工作）





継続的に行われている環境に関するサークル活動の 2018 年度の成果について紹介します。

名大祭実行委員会

<http://meidaisai.com/>

毎年6月の4日間にわたり開催し約8万人が来場する名大祭では、ブース出店者、来場者、地域住民の方々に協力していただきながら、ごみの分別、ペットボトルキャップ回収、模擬店で出た廃油の回収と資源化等、環境に配慮した取組を行っています。名大祭を通じて環境保全に貢献するだけでなく、来場者の方々にも関心を持っていただけるよう、今後もさまざまな環境対策活動に取り組んでいきます。



名大祭実行委員会
ホームページ



ごみステーションでは分別項目を設け、実行委員が来場者に指導しています

ペットボトルキャップを分別回収



集めた量 21.2kg

再資源化され、その利益が
発展途上国の子どものための
ワクチンに

学内や地域から寄付された
古本を安価に販売



回収冊数 約4,502冊
学内外で集めました



販売冊数 約4,000冊
新しい読者の手へ

ねこサークル「なごねこ」

<http://meidaineko.web.fc2.com/>

学内の猫を地域猫とし、不妊・去勢手術の徹底、エサやり、里親探し、亡きがらを茶毘に付すなどの活動を行っています。地域猫活動は、野良猫をなくすための活動です。今いる猫は一代限りの生を全うさせ、人と猫が共存できる環境づくりを目指しています。

新たに地域猫とした猫
(不妊・去勢手術済)
2匹

保護して里親を見つけた猫
(不妊・去勢手術済)
5匹



天国に行った猫
1匹 (奈々丸)

治療した猫
1匹



しらすと陽平の食事



天国に行った奈々丸



由香丸

なごねこの活動は皆様の寄付で成り立っています。

Twitter:
<https://twitter.com/meidaineko>

TEDx NagoyaU

<http://tedxnagoyau.com/>

TEDxNagoyaU は TED 本部の理念「ideas worth spreading」に共感し、名古屋から世界へ価値あるアイデアを広げるべく活動している非営利・学生団体です。さまざまな人にアイデアを披露してもらい、オーディエンスの価値観や人生に影響を与えるべく、イベントを運営しています。

Twitter

<https://twitter.com/TEDxNagoyaU>

Facebook

<https://ja-jp.facebook.com/tedxnagoyau>



イベントの様子



ブレイクタイムの様子

なごやぬいぐるみ病院

なごやぬいぐるみ病院は、「子どもたちがより健康になれるよう広く働きかけ、ぬいぐるみ病院に参加した子どもたちが将来にわたって周囲も巻き込んで健康に近づくことを目指す」を未来図に、ぬいぐるみを使って、ぬいぐるみ診察と保健教育の2つの健康教育を行っています。最近では、ぬいぐるみ診察の代わりに、子どもに医者になってもらう、お医者さんごっこを行っています。名大祭でのブース出店や保育園や学童、病院などへの訪問を通して活動しています。

Facebook

<http://www.facebook.com/なごやぬいぐるみ病院-358365607583768/>



名大祭でのお医者さんごっこの様子



名大祭での保健教育の様子



住宅・非住宅建築物における木材利用に携わる

生命農学研究科で木材利用について学んだ都築知佳さん。環境への貢献が可能な木材産業での仕事の魅力を語っていただきました。

1 名古屋大学での研究内容

私は生命農学研究科生物圏資源学専攻生物材料工学研究分野で森林科学、特に木材利用について学びました。在学中の卒業論文および修士論文の研究課題は「建築・土木分野における木材利用の需給バランス」です。伊勢湾流域圏を対象に、人工林樹齢構成の平準化と収穫材の量と質（強度分布や形状）を考慮して、炭素貯蔵効果を最大化するための材料としての利用方策について検討しました。



研究に必要なデータの測定風景(在学中)

2 現在の仕事の紹介

現在は木材の防腐処理や木造住宅・非住宅建築物のプレカット（柱や梁等の部材の接合部分等を事前に加工すること）を行う大日本木材防腐株式会社に勤務しています。木材は、そのマテリアル利用により二酸化炭素の排出削減と炭素貯蔵に直接つながる材料であり、建材の中でも環境に優しい材料です。さらに、木材に防腐処理を行うことで耐久性が向上し、二酸化炭素の排出を遅らせることができます。このように、まさに環境問題の解決に直結した職場で、現在は工場の生産性や歩留り※1を上げるための改善活動等を担っています。2019年4月にはグループ会社の事務所（ザインウ正木ビル）を木造で建設しました。この建物は断熱対策、空調・照明設備の高効率化、太陽光発電を行うことで国内3例目の木造ZEB※2を達成しています。木材利用促進法が制定されたこともあり、業界では中高層建築物への木材利用の取組が進んでいます。



ザインウ正木ビルの建て方の様子



工場の現場作業者との打合せ

3 環境の仕事をしていることの生きがい・目標

私は中学生の頃から環境に関わる仕事がしたいと思ってきました。木材利用に関わる仕事を通して、持続可能な社会の構築に対して微力ながらも貢献していると感じており、そのことが生きがいになっています。木材産業は環境貢献できる未来志向の魅力ある産業ですが、わが国の現状は他の製造業や欧州の木材産業と比較するとまだまだ発展途上です。この魅力がより広く伝わっていくよう、日々の仕事を通してこれからも一歩ずつ木材産業の発展に貢献したいと思っています。

4 現在の仕事と学生時代がつながっていると
感じている点

現在取り組んでいる「工場の改善活動」は私1人の力ではできません。工場の現場、生産管理、資材、図面作成、営業の各担当者から聞き取りを行ってそれぞれの現状を把握し、複合的な状況を紐解きながらより良い方法を考えています。名古屋大学で学んでいたときも、情報収集や実験の中で多くの方に協力を得て、たくさんの助言をいただいて研究を進めました。多様な立場のつながりを大切にしながら、協働体制を構築し、物事を前進させていく仕事の在り方を名古屋大学時代に学んだように思います。

参考文献

「平成30年度 森林・林業白書」, 林野庁, 2019

※1: 素材に対する、実際に製品になった量や数の割合。

※2: Net Zero Energy Building (ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)の略称で、「ゼブ」と呼びます。快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物のこと。

大日本木材防腐株式会社
生産本部 業務改善推進室
都築 知佳



災害対策室の取組

1 増大する自然災害のリスク

2018年度は自然災害が多い年でした。6月の大阪府北部の地震では、ブロック塀の倒壊による犠牲者があり、周辺の大学も被害を受けました。9月の北海道胆振東部地震では、震度7の揺れによる土砂崩れなどに加えて、大規模な停電（ブラックアウト）が社会に大きな影響を及ぼしました。西日本豪雨、複数の台風、さらには猛暑など、気象災害も多発しました。このような災害はいずれも、自然の力の大きさと、都市や社会の複雑さが関係しています。南海トラフ地震や激しさを増す台風・豪雨災害など将来の自然災害に向けて、これらの経験を生かし、構成員の安全を守り、大学機能を継続するための取組を行っています。

2 大学の安全性向上と機能継続

地震・火災などの発生に備えて、安全性向上のためのハード・ソフト対策は重要な課題です。ハード面では建物の耐震安全性向上、室内の家具や実験機器の転倒・破損防止、非常放送・安否確認システムなどの整備、非常用備蓄などに継続的に取り組んでいます。一方、ソフト面では、災害発生時の避難、救助、初期消火などを担う自衛消防組織や、大学全体の対応を行う災害対策本部の体制を整備しています。春と秋に全学一斉の防災訓練を行うとともに、目的を絞った訓練や講習を随時実施して、対応力向上に取り組んでいます。

さらに、大学の重要機能を災害時でもできるだけ止めないこと、被害を受けても早期に復旧することがきわめて重要です。このために、大規模地震災害を想定した業務継続計画（BCP）を本部事務局や附属病院などで策定しています。BCPは、非常時の多様な状況を想定して、必要対応や優先実施事項の整理、問題点の抽出と事前対策などをまとめたもので、訓練を通じた見直しも進め、実際の準備に生かしています。



学生・教職員参加による消防訓練



災害対策本部室（減災館）

3 災害時に向けた連携

大規模災害時の厳しい状況を想定すれば、総力を挙げて備え、対応することが必要になります。学生、教員、職員がそれぞれの役割をよく理解し、一人ひとりの対応能力を上げ、そのうえで学内のさまざまな部署が連携協力する体制の整備につなげることを目指しています。また、留学生や障害者など緊急時の対応に不慣れな場合もあるので、専門部署によるサポート体制を充実するとともに、大学全体で意識向上を目指しています。

大学周辺地域の行政・住民とは、災害時の緊急避難などについての連携が進んでいます。また、2017年には、大規模地震災害に備えて東海地域の8国立大学法人が連携協定を結びました。東海国立大学機構の発足に向けて、特に岐阜大学との連携を深めつつあります。社会との防災連携と災害時の対策機能を持つ減災館も活発な活動を行っています。日ごろから多様な連携を進め、非常時の安全性・対応力向上につなげていきます。



救命講習

災害対策室 室長
教授 飛田 潤